

【施策評価調査】

施策名	3-4-3	自主防犯組織の育成と強化		103	施策目的 安心して暮らせる地域社会を創るため、警察や自主防犯団体、住民と協力しながら自主防犯団体の育成強化等をおして犯罪の起こりにくいまちづくりを推進します。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	総務企画部地域安全課	担当 リーダー	危機管理 岡本英男		施策内容 町防犯連絡協議会の各支部に対する育成や再編を促し、自主防犯組織の強化を図ります。また、町や各種団体との役割分担を明確にし、地域の安全を守るためのより強固な仕組みを構築します。 (「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)
環境変化	平成17年の今市事件後盛り上がった防犯の機運が、マンネリ化し継続の重要性が問われています。				

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：自主防犯活動(パトロール活動)年間実施回数(回)	平成16年度防犯パトロール実施回数	計画	2110	2740	2740	225件	4270
	565回	実績	2165回	2754回	2850回		
指標：年間刑法犯認知件数(件)	平成16年度刑法犯認知件数	計画	460	450	440	430	420
	466件	実績	350件	354件	342件		
指標：		計画					
指標：		実績					
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	1,000,000	1,180,000	1,220,000		
	決算	1,000,000	1,180,000	1,220,000		

事務事業事後評価 20年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム)			
自主防犯組織育成費	当初 1,220,000	自主防犯団体の数	A	町内を「防犯パトロール」の車両及び北パト隊、交番パトロール隊が町内(まなく巡回パトロール)を行い、またスクールガードの活動が犯罪発生防止に寄与し、刑法犯認知件数が対前年比で14件減少するなど犯罪件数が減少しました。また、地域住民の安心感の向上に寄与しています。			
	決算 1,220,000	24団体 / 25団体		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
	当初			今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	当初			今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	当初			今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	当初			今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

施策事後評価 20年度の検証

自己評価	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
	<p>各支部で組織している13支部の団体とスクールガード6団体、防犯連絡所パトロール隊4隊、交番パトロール隊1隊に加え、青パト隊2団体が積極的に活動し、町内の犯罪発生防止のため、2800回を超える活動がありました。その結果、刑法犯認知件数が対前年比で14件減少しました。これは、地域の防犯活動が犯罪発生防止に大きく貢献しているためであります。</p>	<p>平成20年7月に行政系、警察系、教育委員会系に分かれている自主防犯組織を一つにまとめ、情報の共有化や活動範囲の分担により、効率的かつ効果的にパトロール等が実施できます。また、緊急事態発生時の迅速かつ効果的な防犯体制の構築が実現できます。また、安心安全なまちづくり条例を柱とした更なる防犯体制の強化を目指します。</p>
総合評価	<p>これまでの取組みを生かしつつ、自主防犯組織の活性化に繋がるような組織や意識の統一化や共有化が図られたことを評価する。後期計画策定に向け、持続的に成長できるモチベーションなど、新しい視点での更なる組織の育成強化を期待する。また、併せて施策指標についても見直すこと。</p>	